

## 第 168 回 技術士包装物流会関西支部研究会議事録

2023 年 8 月 24 日

関西支部長 真野仁孝

作成 板垣大介

【日時】 2023 年 8 月 24 日（木） 18 時～19 時半

【方法】 KITENA 新大阪（大阪市東淀川区）及びリモート（Zoom 方式）の同時開催

【出席者】 合計 26 名（会場参加 12 名、オンライン参加 14 名）

【支部長より挨拶】

毎日暑い日が続きますが、街を歩いているとマスクをしている人も少なく昨年とは大きく異なると感じています。講演やセミナーなども対面での開催が増えてきているように感じています。当会でも今年の 2 月から会場開催しており残り 2 回となりますが、引き続き会場開催を続けていければと思います。また、来年も会場開催とリモートのハイブリットを進めて、会場での参加を増やしていければと思います。

今回は下村様に講演頂くわけですが、経緯として 2022 年 JILS の改善事例発表会で下村様の発表を聞いて今回講演を依頼しました。2024 年問題にも寄与する内容であるため、ぜひ皆様も参考にして頂ければと思います。

【講演テーマ】

「次世代社員の活躍で”現場のあるべき姿”のイノベーション実現」  
～DX 実践によるデータ活用と 2024 年について～

【講演者】

下村 祐也 氏 <株式会社ハンナ 取締役>

【講演内容】

### 1. J I L S 関西物流改善事例発表会発表内容

事例発表会での改善の目的は、次世代社員が活躍できる場を提供し、導入済み IT ツールなどを最大限活かすことに改めて注目した。そのため、新たな投資は発生していない。

当発表での取り組みと結果については以下の通り。

#### ・ P Q S 制度導入による異常発生抑制（前年比 4 0 % 減）

プロ・クオリティ・スコア制度：減点制度ではあるが、異常発生がないドライバーにフォーカスを当てて上げていく制度になっている。

PQS 制度を導入した良かった点として、ドライバー自身に対して目標を設定することができ、コミュニケーションの機会となった。

#### ・ ドラレコ映像の活用による未経験者事故の撲滅（前年比 4 0 % 減）

ドライブレコーダーの映像解析により、危険な場所についてはハザードマップを作成し、ドライバーに伝えるようにした。現在ではドライブレコーダーの履歴から事故のリスクの高いドライバーを洗い出す手段としても活用している。

- ・ IT導入に取り組む機会を提供することで新卒・次世代（30歳未満を含む）の定着率向上（50%→100%）

各年次に合わせてポジションや責任を持ってもらうことで定着率を向上させていった。

## 2. HANNA ACADEMY について

目的は個人の学びを支援し、知識の領域を広げ、未来の自分を見つけることで、広く社会状況の変化から、コアビジネスである運送事業の自社のポジション、さらに経営数値分析から、人間学や地域社会との関係性、未来の物流まで幅広い知識を教授するものである。

HANNA ACADEMY は人材を個性のある存在感ある人在に育成し、会社の財産となる人財へ育成していく投資の活動となっている。

## 3. 女性活躍推進について

人への投資をしていく中で、入社3年目の女性社員から女性活躍の場を増やしていくべきだとの声があり、単に女性活躍の活動だけでなくHLAの商標登録を取得や、単に女性活躍にとどまらない活動となっている。

## 4. 健康経営推進について

始めた当初は健康診断を100%受診してもらえる環境を整えるのが目標だった。さらに、当初は会社が主導となる制度の制定などが主であったが、現在は各個人の活動となり「健康経営甲子園」のグランプリを取得するに至った。

健康経営を運営して行くにあたり、安全衛生委員会と融合した形で運営していくことで実現させた。

現在は、「健康で仕事ができること」が当たり前になり健康経営が共通ルールに。社員自らがよい職場になる活動をしている。結果、社員の健康が企業の健康に繋がっている。

## 5. 社内価値感について

創業理念と経営理念を大切にし、道徳教育として5Sを重視している。

創業理念：三方善し

経営理念：私たちは、企業の発展を軸としお互いの物心両面の幸せを追求します。

私たちは、日々進化する企業づくりと品質向上に努め社会的責任を果たします。

私たちは、環境に配慮して社会に貢献する輸送サービス業を目指します。

5S：ハンナの社員として違和感がないことの基準

この3つに加えて、健康経営を加えたモノを当社の価値観としている。

## 6. 今後の展望について

現在、運送業の置かれている環境として、労働時間の上限規制や燃料の高騰やドライバー不足が言われている。その結果、運送コストはますます増加傾向となっている。大手には規模や資本力では勝てないため、「熱血プロ集団！」での差別化戦略を取っている。

差別化を図るために、「高付加価値人材」の育成に力を入れ、「意識の高い社員集団」となることを目指している。それによって、今後は見えないサービスを価格転換しマーケット開発につなげていきたい。さらに、当社は奈良を地盤としており奈良特有の地域の特徴が有り、地域独自の物流網を構築していくこともアプローチしていく。

## 7. 2024年問題の先に

当社は2024年問題の先を見越して、下記を目指していく。

- ・自社の適正価格を明確にし、サービスの価格転換を実現する。
- ・業務効率を向上し、SCM全体の物流コストの削減に貢献する。
- ・人財教育により育成された社員の個性（タレント力）を付加価値化し人的資本の価値を最大限活用し他社との差別化を図る。
- ・進化するITツールを最大限に活用する。

さらに運送業を取り巻く環境として、整備士の不足がありディーラーに車検や修理を出した場合に多くの日数を要することが多くなっている。これからは自社でどこまでやるべきかを考えていく必要がある。

### ◆第169回関西支部研究会の予定

日時：10月16日（月）18:00～19:30

開催方法：KITENA 新大阪（大阪市東淀川区）およびリモート（Zoom）による同時開催

発表者：青木規明氏 <当会会長、生産ロジスティクス研究所 所長>

発表テーマ：「物流が抱える問題と解決の方向性」

以上